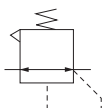


# 小形精密レギュレータ

PR100



## 表示記号



## 仕様

項目	形式	PR100
使用流体		空気
配管接続口径	Rc	1/8
感度	MPa	0.001
圧力設定範囲	MPa	0.02~0.5
最高使用圧力	MPa	0.93
保証耐圧力	MPa	1.5
使用温度範囲 (雰囲気および使用流体)	℃	5~60
空気消費量 <sup>注</sup>	ℓ /min (ANR)	1.5
給油		不要
質量	kg	0.07
材質		アルミ

注：2次側空気圧力0.5MPa時の値です。

## 注文記号

PR100



ブラケット  
無記入—— ブラケットなし  
B—— ブラケット付

無記入—— 圧力計なし  
GA20—— 外形20mm圧力計付 (下配管、φ20×1MPa)  
GD20—— 外形20mm圧力計付 (裏配管、φ20×1MPa)

小形精密レギュレータ

注：オプション設定されている圧力計はJIS 3級です。  
より精密な調圧が必要な場合は、JIS1.5級程度の圧力計を使用してください。  
圧力計の仕様、寸法については1490ページをご覧ください。

## オプション

外形20mm圧力計付



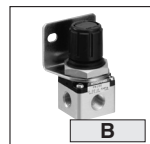
●下配管

●裏配管

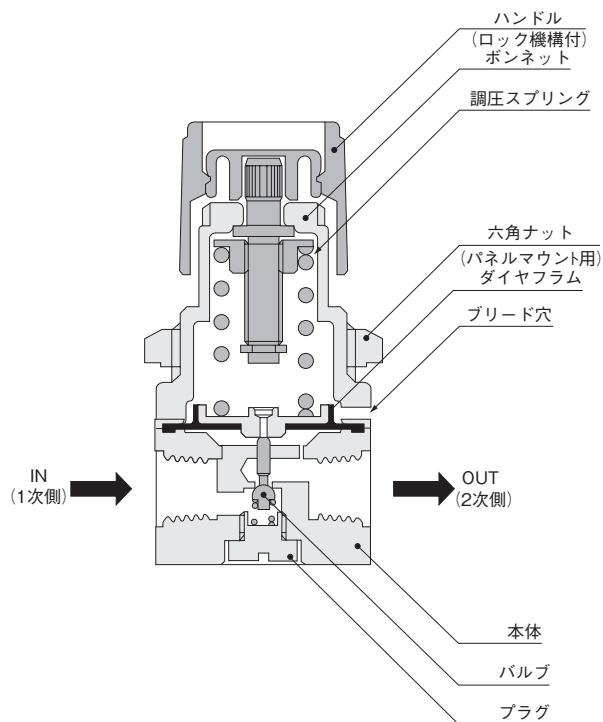
ブラケット

●8-10Z

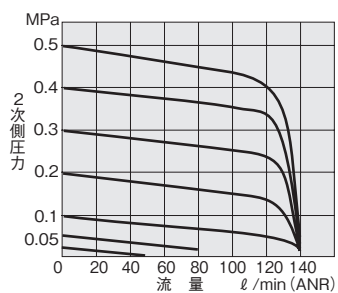
ブラケット付



## 内部構造

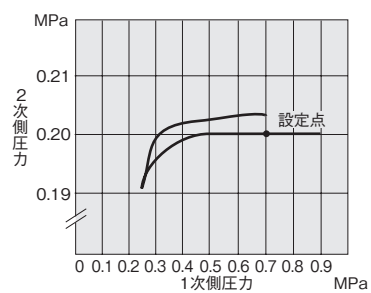


## 流量特性



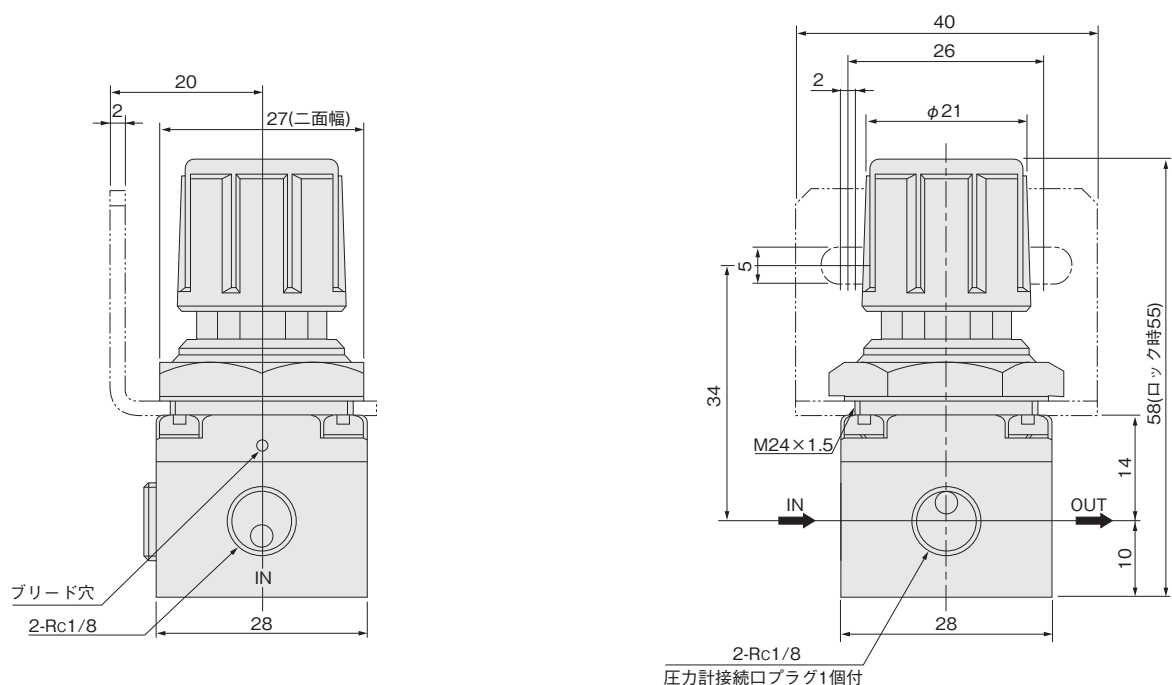
備考：グラフは一次側圧力が0.7MPa一定時での流量特性です。

## 圧力特性



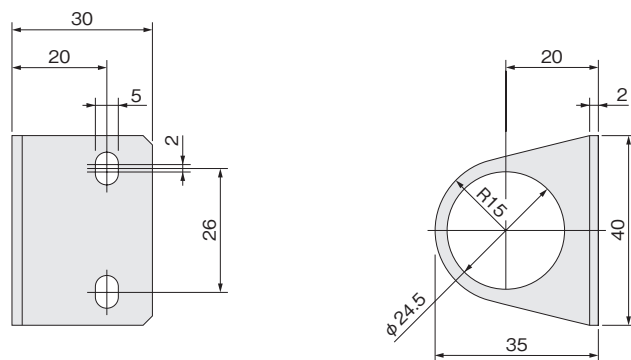
## 寸法図 (mm)

### PR100



備考：PR100をパネルなどに取付ける場合の取付穴は $\phi 24.5$ です。  
板厚：MAX.3

### 8-10Z





## 取付・配管

- 精密レギュレータを単体で取り付ける場合は、ブラケット（オプション）を使用してください。また、リングナットを使用してパネルマウントすることもできます。パネルなどに取付ける場合の取付穴はφ24.5です。また、レギュレータのリングナットを締め付ける時は下記の最大締付トルクを守って取り付けてください。それ以上の力で締め付けると破損する可能性があります。

N・m

形式	最大締付トルク
PR100	4



ブラケット  
(オプション)

- 精密レギュレータへの配管は、空気源側をINポートに、アクチュエータ側がOUTポートとなるように配管してください。

- 注**
- INポート、OUTポートを逆に配管しての使用はできません。
  - ブリード穴をふさぐような取付けは避けてください。ブリード穴がふさがれると調圧ができなくなります。



## 調圧

- 調圧はハンドルを確実に引き出した状態で行ない、右回転（時計回り）させると増圧し、左回転（反時計回り）させると減圧します。調圧後は、ハンドルを本体側に押し込んでロックします。



- 注**
- 精密レギュレータはブリードタイプのため、2次側が調圧された状態では、常時ブリード穴から少量のエアがブリードされますが、異常ではありません。
  - ブリード量は弊社工場出荷時に調整済みとなっておりますので、プラグを緩めたり等は絶対に行なわないでください。
  - 設定は、1次側圧力および2次側の圧力計の表示を確認しながら行ってください。必要以上にハンドルを回し過ぎますと、内部部品の破損の原因になります。回し過ぎにご注意ください。
  - レギュレータは、使用条件によりウナリ（振動）音が発生する事があります。対策につきましては最寄りの弊社営業所へご相談ください。
  - 小形精密レギュレータは構造上、ハンドルを減圧方向最大に回した場合でも、2次側へ少量のエアが流れることがありますが、異常ではありません。



- 精密レギュレータの1次側にバルブを設置し、1次側圧力を繰り返し切り替えるような使い方は避けてください。



## 一般注意事項

- 配管する前に、必ず配管内のフラッシング（圧縮空気の吹き流し）を十分に行なってください。配管作業中に発生した切屑やシールテープ、錆などが混入すると、空気漏れなどの作動不良の原因となります。
- 使用流体は空気を使用し、それ以外の流体の場合は、最寄りの弊社営業所へご相談ください。小形精密レギュレータに使用される空気は、劣化したコンプレッサ油などを含まない、清浄な空気を使用してください。減圧弁の前にフィルタ（ろ過度5μm以下）を取り付けて、ドレンやゴミを取り除いてください。また、エアフィルタのドレン抜きは定期的に行なってください。ドレンやゴミなどが小形精密レギュレータに入ると作業不良の原因となります。
- 流体および雰囲気中に下記のような物質が含まれているときは、使用できません。  
有機溶剤・リン酸エステル系作動油・亜硫酸ガス・塩素ガス・酸類。
- 水滴、油滴などがかかる場所や、粉塵が多い場所で使用するときは、カバーなどで保護してください。